第３回　中川のサギ類コロニー保全対策方針フォローアップ会議　議事要旨

日時：令和８年９月 17 日（木）　14:00～15:45
場所：オンライン形式

1. 規約について

- 規約別添の役職および委員名簿の更新について報告。
- 規約第５条に則り、座長名による開催通知文書を改めて送付することとした。

2. 動議（今回の会議に至る経緯について）

タスクフォースの委員より、事務局の会議資料では今回の会議に至る経緯が不明で、この間のタスクフォースからの意見が反映されていないため、この間の事実を会議冒頭にあたり委員全員で共有すべきとの動議が提出された。

（１）フォローアップ会議とタスクフォースの位置付けの曖昧さや情報共有のなさ。今春、コロニーが吉川地区へ移動し、タスクフォースの活動に課題が生じる中、親会議であるフォローアップ会議へは一切情報共有されなかった。親会議の早期開催を再三要望し、ようやく本日の会議となった。

（２）R8.1.30 の第２回会議の資料・議事要旨。速やかな公表がなされず、その理由の説明もなかった。

（３）本日の会議の議題。親会議で議論したい事項（流域全体で機能する新たな実行枠組みや中長期ロードマップ、関係者間で情報共有を円滑化するためのウェブサイトの開設）を事前に事務局へ意見したものの、取り上げられなかった。これでは規約第２条に反しており委員としての意義がないため、今回をもって委員を辞退する。

辞退に際し、この間のタスクフォースでの取組内容を画面共有して説明。特に、埼玉県内の過去のコロニー位置と土地利用データをもとに、今後、流域で移動先コロニーが形成される可能性の高いエリアを抽出した解析結果を提示。現在の誘導の試行地（大吉調節池等）はそのエリアに入っており、試行地は妥当と裏付けられた。今後のコロニー保全は、現状でコロニーがある吉川地区の屋敷林を残すことが肝要であり、サギ類が去った中島地区では治水工事を優先することを提案する。

主な議論

- 事務局より議事要旨の公表遅れについて深謝。会議資料は、チュウサギ、アマサギ等は環境省レッドリスト掲載種であることから繁殖地の公表は控える必要があるとの考えのもと、黒塗り箇所が出てくるため、上部機関と調整中で公表が遅れている。
- 警戒心の強い希少猛禽類等であれば繁殖地の公表は控えるべきだが、サギ類コロニーは誰でも目につき、中川のコロニーは広く知られているものであり、繁殖地を黒塗りすることは全くナンセンスである。むしろ、レッドリスト掲載種も多く繁殖している貴重な場所である旨を積極的に発信するのがよい。
- タスクフォース担当委員と事務局で個別協議の場を設け、今後の調整を進めたい。

3. 議題

（１）調査結果の報告

- 事務局より、中島地区および吉川地区のコロニーの形成時期調査と、中島地区および大吉調節池での各種誘導手法の試行結果を報告。

（２）今後の予定について（河道掘削計画の見直し等）

- 事務局より、営巣地が吉川地区へ移動したことを受け、これまでの河川整備計画規模の一括掘削案（第２回会議で提示した分水路掘削）は取りやめ、緊急流域治水プロジェクトに必要な範囲（高水敷表層掘削・一部樹木伐採）を先行する方針を説明。
- 緊急流域治水プロジェクト（令和 12 年度目標）完了後の工事予定は白紙である。
- 吉川地区は民有地で、住宅と隣接する周辺住民から苦情が出ており、苦情対応として非繁殖期に枝下ろし等が行われる可能性がある。

下記意見を踏まえ、当面は緊急流域治水プロジェクトに位置付けた整備と、他の代償地への誘導対策に継続して取り組むこととした。

いただいた意見

- 河道掘削計画の見直しを了承した。
- 吉川地区で古巣が撤去された場合は、それを他の誘導候補地に設置して誘導を試みるとよい。
- 中島地区にコロニーは恐らく戻らないため、吉川地区の屋敷林を確実に保全し、中島地区は営巣林を残さず河川工事を進めるのがよい。
- コロニー保全のためには、吉川地区の屋敷林の保全に注力したいが、民有地であり困難と言わざるを得ない。限られた中で可能性がある場所はできるだけ残す方針とするしかないため、中島地区へサギ類が戻る可能性に期待して、中島地区の旧営巣地（樹林帯）は当面手をつけず維持することとし、誘導対策の実施を継続する。
- 河川管理者ができる範囲にも限界がある。今後は、県の関与強化を働きかけるとともに、関係自治体・市民団体・地権者等の参画を促し、流域全体でコロニーを保全していく受け皿づくりが必要。
- 昔の中川は自然状態に近く、30 年前ならコロニーの移動先となりうる林も周辺に多く存在したが、現在はすっかり人工的な景観となった。河道の乾燥化も進み、治水上の容量に照らしつつ掘削も必須だが、工夫次第で環境配慮も可能である。タスクフォースでの解析のように、科学的なアプローチも後押しとなるだろう。サギ類コロニーとの軋轢は全国で問題となっているが、本件のように協議の場が存在するのは珍しい。好事例となる取組としたい。

4. その他

- 事務局から情報公開の遅れを深謝するとともに、第１回～第３回の議事要旨・要約について、委員確認を経て２週間以内に公表準備を進めると説明。
- 委員より、保全対策方針や会議資料についても、分かりやすさと公開姿勢に配慮して公表するよう要望があった。

以上